

KTK

NO. 73

後援会費郵便振替口座
01070-7-32145
あらぐさ後援会

あらぐさ通信

編集 集 あらぐさ後援会
編集協力 社会福祉法人あらぐさ福祉会
〒617-0813 京都府長岡京市井ノ内広海道42-3
TEL 075-953-9212 FAX 075-953-9215

私達がつくった うれしいお金

楽しくお出かけ

焼き肉・レストラン・温泉・映画村にも



生産活動や創作活動で作った製品・作品をお買い上げいただいた代金や、カタログ販売での売上金は、給料やボーナス、分配金として利用者さんに支払われます。

これらのお金は、がんばって働き活動に取り組んだ対価であり、利用者のみなさんにとって
は、喜ぶとともに活動への
意欲につながるものです。

お金の一部を使ったさまざまな取り組みが企画されました。大型バスによる日帰り温泉ツアー、希望を募ってのグループ外出など、社会経験を積むうえでも楽しいお出かけになったようです。(3面に続く)

(上) 東映太秦映画村にて

いろいろな制度を活用

ひとり暮らしをめざして

ヘルパーさんとお料理も

あらぐさに通って4年。22歳のの

ぞみさんは、5人きょうだいの末っ子。帰宅直後ののぞみさんとお母さんにインタビューしました。（取材Ⅱ前田・真殿）

ジムやプールで汗を流して

あらぐさに毎日通うのが「楽しい」という、のぞみさん。東向日駅前のライフシティ内にある「陽だまり庵」で販売の仕事をするのを楽しみにしています。あらぐさ祭で踊ったり販売することも大好きです。

お休みの日は、ヘルパーさんと一緒にいろいろなお出かけします。月に1度は西京極のスポーツジムかプールにも行きます。ジムでは自転車こぎを頑張っているそうです。「太郎君の旅行社」（「あらぐさ通信」71号）の企画にも参加。今度は奈良へ出かけ

ます。

お酒やカラオケで

若者同士のお付きあいも

お友達やお母さんとのお出かけも楽しみ。

向日市障害児学童保育（ガンバクラブ）の元指導員さんたちと東向日の居酒屋でお酒を飲んだりカラオケをすることもあります。

今はおられないおじいちゃんの影響なのか、相撲が大好きです。3月にはお母さんと大阪場所を見に行きました。ひいきのお相撲さんは高見盛。残念ながら、この日は負けてしまいました。今度は2階の椅子席ではなく、「升席で応援したい！」そうです。

「デイズニールランドや温泉にも行きたい」——夢はいっぱいです。

のぞみさんのお給料は、3千円の月

と1万円位の月が交互にあります。ピンのデジカメを買うために、現在貯金に励んでいます。

お料理・お洗濯

プチ一人暮らし実践中

あらぐさから帰宅するとテレビを見て過ごしますが、金曜日の夕方は少しちがいます。ヘルパーさんと自宅の「専用キッチン」でお料理をするのです。ホットプレートや包丁を使って夕飯やデザートを作ります。洗濯物をたたむことも、ヘルパーさんに上手にやる気を出せるよう支援してもらいます。お母さんは「親にはできない、すごい！」



1面のつづき



(上から) 山科・いちご狩り/JR 京都駅/イオンモール・ハナ/雄琴・琵琶湖グランド・杉ル/ラーメン・天天有

と感激。のぞみさんは「プチ一人暮らし」を実践中なのです。

短期入所(ショートステイ)を月に1回、2泊3日利用しています。「楽しいよ」とのぞみさん。持って行く荷物はお母さんに手伝ってもらって用意しています。

養護学校への進学
友達や先生に恵まれて

のぞみさんは、生後2ヶ月検診のころから、発達の遅れについて言われたようですが、お母さんは受けいれがたく感じていました。小学校の入学時に、適正就学委員会から「養護学校」をすすめられました。地域の学校に行かされたく障害児学級で学びました。中学からは向日が丘養護学校へ。途中から

の入学を心配しましたが、寄宿舎も体験し、よい友達や先生に恵まれ、安心されたそうです。

ケアホーム・グループホーム
親と離れて暮らすことも

のぞみさんのご自慢は、雨が降らない日の朝は、30分ほどかけて、自宅からあらぐさへ歩いて通うことですが、将来、親と離れて友達と暮らすことも考えています。お母さんは、「誰と暮らすか、相性もある」と少し心配もあるようですが、「ぜひ、あらぐさにケアホームやグループホームを作って、本人が『たまには家に帰るのもいいかな』って思うときは『家に遊びにおいで』と言えるのがいいな」と思いを語っておられました。

暮らしを豊かに
このようにして制度を活用

のぞみさんの場合、

平日の日中(あらぐさ・通所)

○生活介護サービス

平日の夕方(てくてく・ヘルパーさん)

○居宅介護サービス

(身体介護・家事援助)

平日の夕方(若竹苑)

○日中一時(地域活動支援センター)

休日の外出(てくてく・ヘルパーさん)

○移動支援サービス

夜間(ひまわり園)

○短期入所(ショートステイ)サービス

*いづれも障害者自立支援法に基づいて給付されるサービスです。

花いっぱい 楽しみいっぱい

4月から、あらぐさの活動に「花づくり」が加わりました。

長岡京市・井ノ内から車で約15分。西山の麓にある「花トピア大原野」（京都市・西京区）が、その作業場です。5月上旬のある日、作業中の温室（ビニールハウス）をのぞいてみました。



広々とした
ハウスの中
で

「花トピア大原野」は、協同組合方式で運営され、いくつかの園芸農家がハウスを構えて花づくりに取り組んでいます。

なだらかな斜面の一角にある本谷二郎さんのハウスで、あらぐさの作業が始まりました。大きなビニールハウスが2棟あり、大きい方は、約700㎡もあります。天井の内面はカーテンで覆われています。温度の調節や水やりは、自動調節できる機能を備えた立派なハウスです。

広々としたハウスの中には、花とつぼみをつけたキンセンカとペチュニアの苗ポットが一面に並んでいます。これから出荷を待つシニアやベゴニアの苗を合わせると5万から7万ポットにもなります。

訪れた日は、京都の花市場に出荷する日で、かわいらしい白



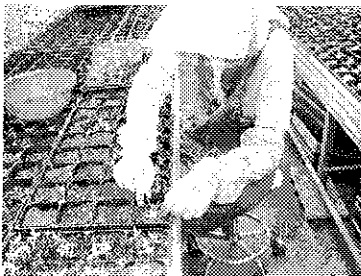
やピンクの花のペチュニア480鉢が集荷場に運ばれました。



楽しくケイ
トウの鉢上
げ作業

デイセンターやワークセンターの利用者さん2名、10名が、毎日ここへ作業にやって来ます。

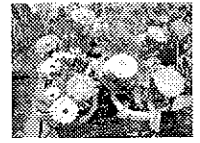
この日の午前中は、ワークセンターの女性2名が、鉢上げに取り組んでいました。20cmほどに伸びたケイトウとペチュニアを3号ポットに植え替える作業です。ピンセットを使った細かい作業ですが、2人とも「楽しいです」と、約2時間の作業に気持ちを集めています。



ケイトウの鉢上げ作業

3号ポットは1つのケースに24個が並んでいます。これを並べる作業は、障害福祉センターで、デイセンターの利用者さんが行っています。

ほかに、土の再生作業や「発芽トレイ」の洗浄、土運びなど、これからも、あらぐさの利用者さんにあつた作業が考えられていくようです。



あらぐさの 実践の広がり

現在、あらぐさでは、職員の中に「花トピア」担当を6名置き、生産部と販売部に分かれて、この新たな仕事興しと市場開拓に取り組んでいます。

「鉢上げ」や「鉢広げ」(苗の生育に合わせて、ポット間の隙間をあける)の作業は、「見てわかりやすい仕事」で、広くて静かなハウスの中でできるので、「安全で、利用者さんは黙々と作業をしている」と語るのは職員の松村誠さん。

種から苗、つぼみから花が咲く植物の日々の生長を実感できるこの仕事は、あらぐさの実践に広がりをもたらしたようです。種まきから3ヶ月で出荷の時期を迎えます。つぼみを次から次へと膨らませ花を咲かせていきますが、この時期までに花首が伸びすぎて不格好な姿にならないようにすることがたいへん

難しいそうです。

また、花の管理には休日はありません。土曜・日曜、5月のゴールデンウィークも職員が交替でハウスの当番にあたっています。

温度管理や水やり、利用者さんにしていただく作業の準備や片付けなど、職員がしなければならぬ仕事はたくさんあります。



オリジナル 商品にも注 目

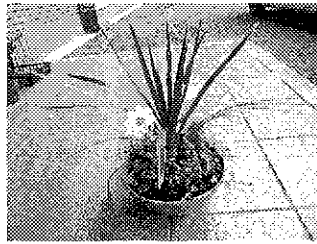
販路を増やすこととオリジナルの商品を作ることとこれからの課題です。

夏から秋にかけて、ヒマワリやコスモスの注文販売にも取り組みたいとのこと。

職員の加藤聖子さんは、お花の販売所を設けたり移動販売をして、「地域の方々との交流ができたら」と抱負を語ります。

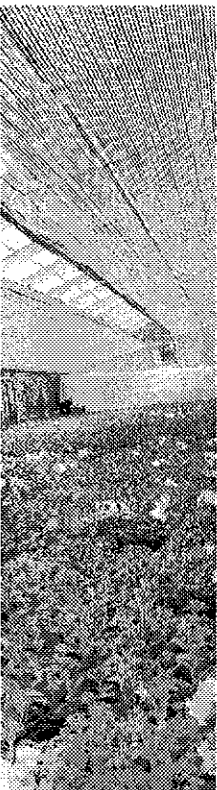
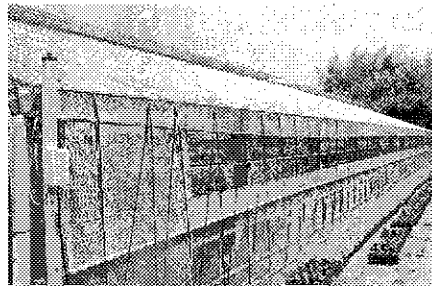
花づくりに最初から協力・指

導いただいているのが、枚方にある「わらしべ会」の森口誠さん。Cグループの利用者さんが作った「寄せ植え」の出来栄えに、よい評価をいただきました。ワイヤープランツなど4〜5種類の花を組み合わせたもので、花屋さんの店頭では2千円ほどで売られます。



「寄せ植え」

今スタートしたばかりの「花づくり」ですが、試行錯誤を繰り返しながらも、あらぐさの実践が広がることによって、利用者さんの生活に豊かさや、自立に向けた力をのばす可能性をもたらす、あらぐさの、この新たな挑戦を見守っていきたいと思います。



きょうされん第32次国会請願署名 「協力ありがとう」ございました

あらぐさでお願いしました
国会請願署名は、皆様の御協
力をいただき、署名1987
筆、カンパ59870円を集
めることができました。(4
月末現在)

きょうされんは、3月18
日に第1回目の国会請願行動
を行い、すべての国会議員に
紹介議員になっていただくよ
う依頼しました。4月27日
現在、自民党・公明党をはじ
め、民主党・共産党・社民党・
国民新党・改革クラブ・無所
属の各議員411名が紹介議
員となって約50万筆の署名
を国会に提出しました。第2
回目の国会請願行動は、5月
中旬に予定されています。障
害者自立支援法の改正案が3
月31日に国会に上程されま
した。私たちが求めている「応

益負担の廃止」については、

「負担能力にに応じて厚生労働
大臣が定める額」を利用者負
担額にするとしています。し
かし、私たちの運動によって
実施された、2回の「特別対
策」「緊急措置」により、収
入によって「上限額」が決め
られたことにより、すでに「応
能負担になっていく」という
のが政府の見解のようで、「一
割負担」の制度は残ったまま
です。また、事業所の経営を
不安定にした報酬の「日払い
方式」も継続されました。

国会の審議において、請願
署名に託した私たちの願いが
反映されることを期待してい
ます。

皆様のご協力ありがとうございます
ございました。



シリーズ⑥ あらぐさと私

あらぐさ福祉会

前事務長 角 撰子さん

ほぼ2年の準備期間を経て、61年3月に
光明寺前の小さな借家で4人の卒業生、私を
含む3人の職員で「あらぐさ」がスタートしたのでした。無認
可施設時代の19年間、お母さんたちは、何と云っても運営
資金作り。休み返上で古紙回収、バザーや物品販売に明け暮れ
て、無理も随分してきました。バザーといえば、3時間で6百
万円を売り上げた秋の大バザーは今や伝説となっています。地
域からの用品提供件数千件以上、350人もバザー要員(親
や教員、応援団)で作りの出たパワーは、あらぐさ法人化への
大きな底力となり、念願の法人施設となったのでした。

当時、利用者の通いがいと笑顔を求めて、同僚の職員たちと、
これまた夜更けまで実践論議。悩んで悩んでたくさん言葉が
生まれました。「きらりと光るあらぐさ生活」「僕、この街が
好き」「その人らしく」「十人十色の生活づくり」「作業の
おいのしない作業所」「私の出番、僕のしごと」等々。ないも
のづくしの時代に、必要から工夫を生み、願いを要求にかえ、
通ってくる利用者が主人公になるように語り合ってきました。

法人になってからは事務長として、パソコンと奮闘。そんな
日々も、早25年。実は、この3月末であらぐさ初の定年退職
となりました。これまで本当はたくさんの方々には知恵も力もお
借りしながら、これまでやってこれました。この場をお借りし
て、心から御礼申し上げます。

1日は長いのに、振り返る1年1年はとても短く感じられる
ものです。退職という期に、これまでのポジションにひとま
ず区切りをつけさせていただくことになりました。ただ、夜
なべはもう無理、週も2、3日というところですが、「この乙
訓に暮らし続けたい」と25年前に掲げた思いを現実の形にし
ていくために、共に考えていけたらと思っています。

二十一年度事業計画・予算を承認

評議員会・理事会を開催

平成二十一年度第三回評議員会と第四回理事会が、三月二十二日に開催され、二十年度補正予算案、二十一年度事業計画案、予算案などが審議され、全員一致で同意・承認されました。

事業計画について、法人(全体)にかかわる部分を紹介いたします。(要約)

1 障害者自立支援法に基づく指定障害福祉サービス事業の経営

(1) 「障害福祉センター あらぐさ」

ア 生活介護事業(2提供単位) 「デイセンター あらぐさ」

イ 就労継続支援B型事業 「ワークセンター あらぐさ」

(2) 共同生活介護事業「ケアホームかざぐるま」

(3) 居宅介護事業(新規)

(4) 相談支援事業(新規)

2 次期事業拡充計画の策定

(1) 平成十八年度に設置した「事業検討委員会」を継続させ利用者・家族の高齢化等、障害のある人たちを支える家庭の変化、今後養護学校を卒業する生徒数の推移、乙訓の他法人・事業所等の動向を見極めながら、地域での生活が継続できるように、将来を見通した事業計画を策定します。そのため、事業計画を推進する部署を設けます。

3 危機管理及び人権尊重と法令遵守の徹底

(1) 利用者の生命と安全を守り、あらゆる危機を想定した危機管理マニュアルの作成と点検、「ヒヤリハット」の教訓化など、事故を未然に防ぐための注意の喚起やその方法の徹底及び施設設備・車両の点検に努めます。

(2) 利用者の人間としての尊厳を大切にし、利用者の権利擁護に努め、人権尊重と法令遵守のため職員行動規範を制定し、その徹底に努めます。

4 法人組織体制の整備と強化及び人材の育成

(1) 法人本部・事務局、各事業など事業の一体化するとともに、事務・業務分担任を明確にするなど、組織の整備をすすめます。また、サービス管理責任者等、必要な人材の計画的養成に努めます。

(2) 職員の資質向上のため、職員の自己研鑽を支援するとともに、職員の研修派遣をはじめ、計画的な研修を行います。

5 法人財政の確立

(1) 障害の重い人が多数利用する事業所として、利用者支援を維持・充実させるため、事業運営に必要な財源の確保に努めます。

(2) 障害者自立支援法の諸矛盾の解消のために必要な取り組みをすすめるとともに、事業運営に対する関係行政の

理解と援助を求めます。

(3) 次期事業に伴う資金計画について、検討します。

(4) 自己資金を確保するとともに、あらぐさ後援会等への協力をお願いします。

6 法人経営の透明性の確保

(1) 利用者の人権の尊重を基本とした支援の徹底のため、苦情解決制度の周知徹底を行い、自己評価、第三者評価事業の結果に基づき改善に努めます。

(2) 法人をより多くの方々に知っていただくため、ホームページの開設や、後援会と連携した広報活動に努めます。

法人へのご寄付御礼

草津赤十字奉仕団

野々下國男様

美容室かじゆ美様

向日が丘養護学校分会様

山崎幼稚園様

匿名 一名様

誠にありがとうございました
(08年10月、09年3月)

五十音順)

乙訓上映決定!

6月20日(土)

向日市民会館
市民ホール



- ① 10:30~13:00
- ② 13:30~16:00
- * 開場は各15分前です
- * 上映前にアピールタイムがあります

前売り 大人 1000円 (当日1300円)

小中学生高校生・障がい者 800円 (当日1000円)

問い合わせ あらぐさ福祉会 電話075(953)9212

主催/乙訓「ふるさとをください」上映実行委員会

(あらぐさ後援会 あらぐさ会 (福)あらぐさ福祉会)

後援/向日市・長岡京市・大山崎町・長岡京市教育委員会・向日市社会

福祉協議会・乙訓圏域障害者自立支援協議会・乙訓障害者施設連

絡協議会・京都新聞社

『ふるさとをください』上映成功にむけて

あらぐさ後援会では、映画上映の取り組みと映画鑑賞を通して、これまで私達が目指してきた「障害のある人もふくめた、誰もが住みよい地域づくり」への理解と共感、連帯の輪をひろげよう!と、がんばっています。

どうぞ、皆様方のご協力をよろしくお願いいたします。

20年度後援会ご加入 誠にありがとうございました(H20・4~21・3)

個人会員 405名

792口

団体会員 15団体

33口

カンパ 47名

108, 475円

引き続きご加入いただきますよう、よろしく
お願いいたします。

同封の振り込み用紙をご利用ください。

平成4年6月5日 第3種郵便物承認(毎月1回25日発行)
平成21年5月24日発行 KTK増刊通巻第3206号

〒602-1814

発行所 京都障害者団体定期刊行物協会 頒価50円(購読料は会費に含まれています)
京都市上京区猪熊通丸太町下ル中之町519 京都社会福祉会館4階京都難病連内

発行人 高谷 修